

平成26年度 認定中心市街地活性化基本計画のフォローアップに関する報告

平成27年3月
北見市（北海道）

○計画期間:平成23年3月～平成28年3月(5年)

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 平成26年度終了時点(平成27年3月31日時点)の中心市街地の概況

本市では、平成23年3月に本計画の内閣総理大臣の認定を受け、「オホーツク圏の中核都市にふさわしい経済・文化・医療・商業の集約によるコンパクトなまちづくり」を基本理念に掲げ、駅前周辺エリア（複合交通・地域交流拠点）、北見赤十字病院周辺エリア（高度医療・災害時支援拠点）、中央大通沿エリア（骨格軸）を2拠点1軸として、各エリアの機能強化に取り組んでいる。

本計画では、「交流人口の拡大」、「居住人口の拡大」を目標に、北見市や北見商工会議所、北見市商店街振興組合等を中心に41事業を推進しており、これまで38事業を実施（着手）した。

今年度実施した調査では、週末歩行者通行量及び居住人口ともに減少傾向に歯止めがかかっておらず、各種事業効果による中心市街地のにぎわい創出までは至っていない。

しかし、平成26年12月に北見赤十字病院（新本館）の改築が完了し、一層の地域医療の充実が図られ、オホーツク圏の地方センター病院として北見市民のみならず近隣市町村からの利用者が増加していると考えられる。また、平成27年度には市立中央図書館のオープンが控えており、来街機会の増加が見込まれることから、中心市街地のにぎわいは徐々に回復していくと期待している。

2. 平成26年度 of 取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

目標に掲げた「交流人口の拡大」、「居住人口の拡大」はいずれも目標達成には至っておらず、引き続き新たなコミュニティ構築に向けた中長期的な取り組みが必要と考える。

また、従来から開催しているまつり等のイベントや空き店舗を活用した事業を継続すると共に市・商工会議所・商店街等関係機関が連携し新たな商業振興策を講じていくことが重要である。

なお、現在進められている北見赤十字病院周辺エリア並びに市立図書館・市庁舎に係る駅前周辺エリアが完成・早期に整備されることにより、にぎわい創出（歩行者通行量の増加）に繋がり、今後は更に中央大通り沿道1軸の活性化では民間投資を促すような行政施策と官民連携による取り組みが必要であると考えことから、ワーキンググループを設置し、波及性及び実効性の高い事業を企画・推進していくことが肝要である。

II. 目標毎のフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の 見通し	今回の 見通し
都市機能の充実によるにぎわい創出	週末歩行者通行量	7,573	7,800	5,788	③	③
居住環境の整備等によるまちなか居住の促進	居住人口	4,422	4,500	4,445	①	②

<取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

- ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

2. 目標達成見通しの理由

「週末歩行者通行量」については、平成 26 年 10 月調査時点では 5,788 人で、前年より 11.5% 減となっており、目標値との乖離が見られる。しかし、平成 26 年 12 月の北見赤十字病院新本館のオープンに続き、平成 27 年中には同院旧南館の改修を終えグランドオープンを予定しており、さらには、J R 北見駅南に市立中央図書館の完成が控えていることから、多くの市民が中心市街地を訪れることが予想され、通行量増加が図られるものと考えている。

また、「居住人口」については、借上市営住宅整備等により居住人口の増加が続いていたものの、平成 25 年度以降減少に転じている。地域経済の概況は小売業やサービス業などで改善が見られるものの、住宅投資が活発になる見込みは低いと推測される。このことから、計画期間内に居住人口の増加が図られる見通しは厳しいと考えられる。

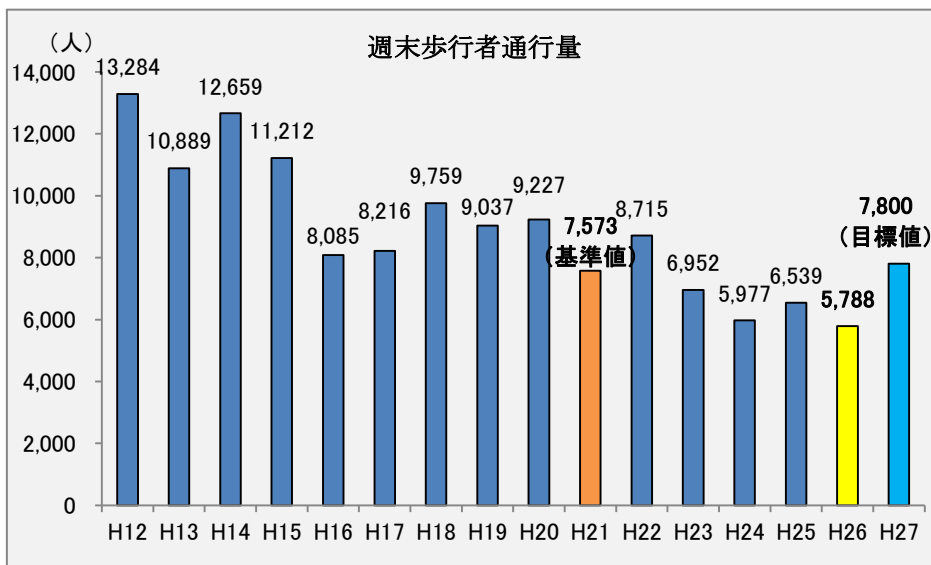
3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

市全体に見られる動きと同様の人口減少に直面しており、この傾向を凌ぐほどの住宅投資が活発になる見込みは現段階では低いと推測され、また、市営住宅等の公共投資が計画期間内に実施される予定がないため、居住人口の増加が図られる見通しは厳しいと判断した。

4. 目標指標毎のフォローアップ結果

(1) 「週末歩行者通行量」 ※目標設定の考え方基本計画 P53～P59 参照

●調査結果の推移



年	数値 (単位: 人)
H21	(基準値) 7,573
H22	8,715
H23	6,952
H24	5,977
H25	6,539
H26	5,788
H27	(目標値) 7,800

※調査方法：週末歩行者通行量（毎年10月実施）

※調査月：平成26年10月10日（金）～12日（日）実施

※調査主体：北見商工会議所

※調査対象：中心市街地来訪者（調査ポイント＝中心市街地の5箇所）

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 市立中央図書館整備事業（北見市）

事業完了時期	平成27年度【未】
事業概要	市立中央図書館の老朽化・狭隘化に伴い、公共交通機関等の利便性が高く、まちなかのにぎわい創出が期待できる中心市街地に当施設の移転整備を行う。
事業効果及び進捗状況	市立中央図書館は、1日あたり476人の利用が見込まれており、中心市街地における市民の憩いのオアシスとして、駅周辺の集客力及び回遊性の向上が期待される。 平成26年3月 建物本体工事着手 平成27年6月 駐車場等工事着手予定 平成27年8月 全工事完成予定

②. 借上市営住宅整備事業（北見市）

事業完了時期	平成24年度【済】
事業概要	中心市街地内に、民間が整備した集合住宅を市営住宅として借上げることにより、まちなか居住を推進する。
事業効果及び進捗状況	平成24年度に借上市営住宅整備事業が完了し、52戸の市営住宅を供給した。民間賃貸住宅の場合、家賃等から若年単身者や中堅所得層等に入居階層が限定されてしまう可能性があるが、借上市営住宅とし

て供給することにより、子育て期のファミリー世帯、高齢世帯など多様な世代がまちなかに居住できるようになり、居住人口が増加し、周辺地区のにぎわいに寄与した。

③. 北見赤十字病院整備事業（北見赤十字病院）

事業完了時期	平成 27 年度【未】
事業概要	北見赤十字病院は、老朽化が著しく、分館方式により増築が重ねられたため、各館を繋ぐ導線が複雑化などで迅速な医療活動に支障がでている。よって、高次医療圏の中核病院として、都市機能の集積した交通アクセスの整っている中心市街地での病院を整備する。
事業効果及び進捗状況	新本館は平成 26 年 12 月に開院し、既存建物のうち継続して活用する部分の改装も本年 5 月末で完了の見込みとなった。 今後は、残る増築及び外構工事を行い、平成 27 年度末に事業完了予定。

④. 中心市街地活性化施設「まちきた大通ビル」整備事業（北見市）

事業完了時期	平成 26 年度【未】
事業概要	まちきた大通ビルは、合併後の新北見市の中心市街地の中核をなし、行政機能、商業施設、バスターミナルの 3 つの機能をあわせもつ複合施設として平成 20 年にオープンした。市民のにぎわいの場として、市民交流広場を設置し、市民が自由に憩える集客施設として環境整備を行う。
事業効果及び進捗状況	中心市街地活性化施設であるまちきた大通ビルの整備は、平成 23 年度より基本設計等実施していたが、行政機能と商業機能が共存する現計画をこのまま進めることは難しいと判断し、新たな複合交通・地域交流拠点の方向性に基づき、行政機能に替えて新たに交流機能の強化を図ることとした。この新たな計画が実現するのは平成 32 年度を予定しており、現在の中心市街地活性化基本計画内には完了しない。

●目標達成の見通し及び今後の対策

週末歩行者通行量は、調査日が雨と強風による荒天であったことも影響し、前年より 11.5%減少し、5,788 人となり、目標値を達成していない。

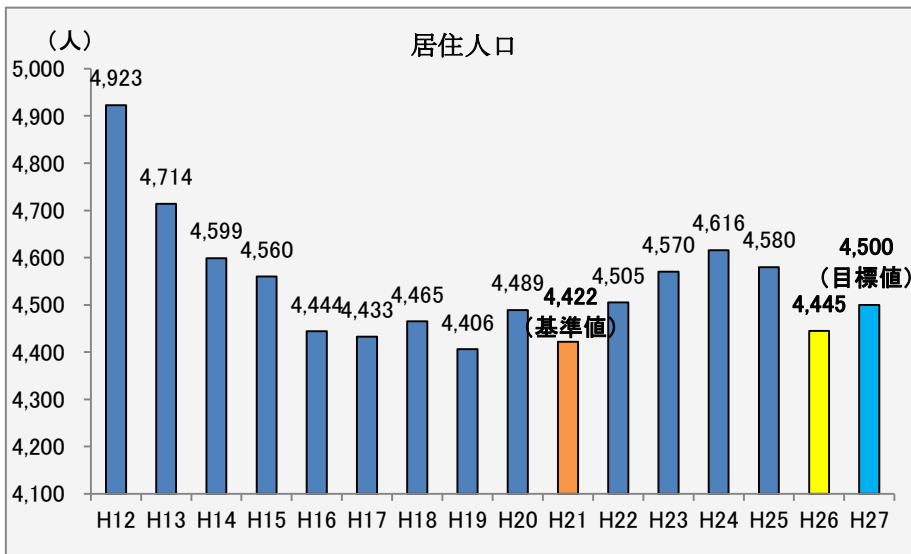
しかし、平成 26 年 12 月に北見赤十字病院新本館がオープンし、さらに平成 27 年 12 月に市立中央図書館のオープンが控えていることから、数値の改善が見込まれる。

また、若者の Uターンによる飲食店の開業や空き店舗を活用して起業家の育成を展開する事業者が現れるなど、中心市街地に若者を中心とした新たな動きが見られ始めている。

今後、未着手となっている事業の実施や取り組んでいるイベント事業等の継続することにより、来街機会を喚起し、民間投資を含めた地域経済の好循環を図ってまいりたい。

(2) 「居住人口」 ※目標設定の考え方基本計画 P60～P63 参照

●調査結果の推移



年	数値(単位:人)
H21	(基準値)4,422
H22	4,505
H23	4,570
H24	4,616
H25	4,580
H26	4,445
H27	(目標値)4,500

※調査方法：中心市街地域での住民基本台帳登録人口

※調査月：毎年10月末

※調査主体：北見市

※調査対象：中心市街地域内居住者

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 借上市営住宅整備事業（北見市）（再掲）

事業完了時期	平成24年度【済】
事業概要	中心市街地内に、民間が整備した集合住宅を市営住宅として借上げるにより、まちなか居住を推進する。
事業効果及び進捗状況	平成24年度に借上市営住宅整備事業が完了し、52戸の市営住宅を供給した。民間賃貸住宅の場合、家賃等から若年単身者や中堅所得層等に入居階層が限定されてしまう可能性があるが、借上市営住宅として供給することにより、子育て期のファミリー世帯、高齢世帯など多様な世代がまちなかに居住できるようになり、居住人口が増加し、周辺地区のにぎわいに寄与した。

●目標達成の見通し及び今後の対策

北見市まちなか居住推進計画により、平成20年から平成24年に借上市営住宅整備事業で中心市街地に3棟(142戸)を供給したことなどにより居住人口が増加し、目標値を超えて推移していた。しかし、平成24年をピークに居住人口は再び減少に転じ、平成25年度以降15棟(90戸)の民間住宅等が建築されたものの、平成26年度末現在では目標値から55人少ない状況となっている。

今後は、より暮らしやすいまちなかづくりを目指し、都市機能や交通結節機能を高めることにより中心市街地の利便性を高め、住宅投資を含めた民間投資を喚起してまいりたい。